



倫理的に 考えるための 道具 一貫性の要求

2018年11月8日

医学系研究科 医療倫理学教室

三羽恵梨子



死刑制度
存続

死刑制度
廃止



中絶反対

中絶容認



倫理的に 考えるための 道具 一貫性の要求

2018年11月8日

医学系研究科 医療倫理学教室

三羽恵梨子



死刑制度
存続

死刑制度
廃止



中絶反対

中絶容認



倫理学とは

「～すべきである」 「～すべきでない」 「～してもよい」
について、合理的に（筋道立てて）考える学問

このクラスの目的

倫理的に考えるための道具のひとつである

「**一貫性の要求**」を習得するためのクラスです

このクラスの達成目標

- 「一貫性の要求」を**説明できる**
- 一貫性の要求を用いた事例批判を**理解できる**

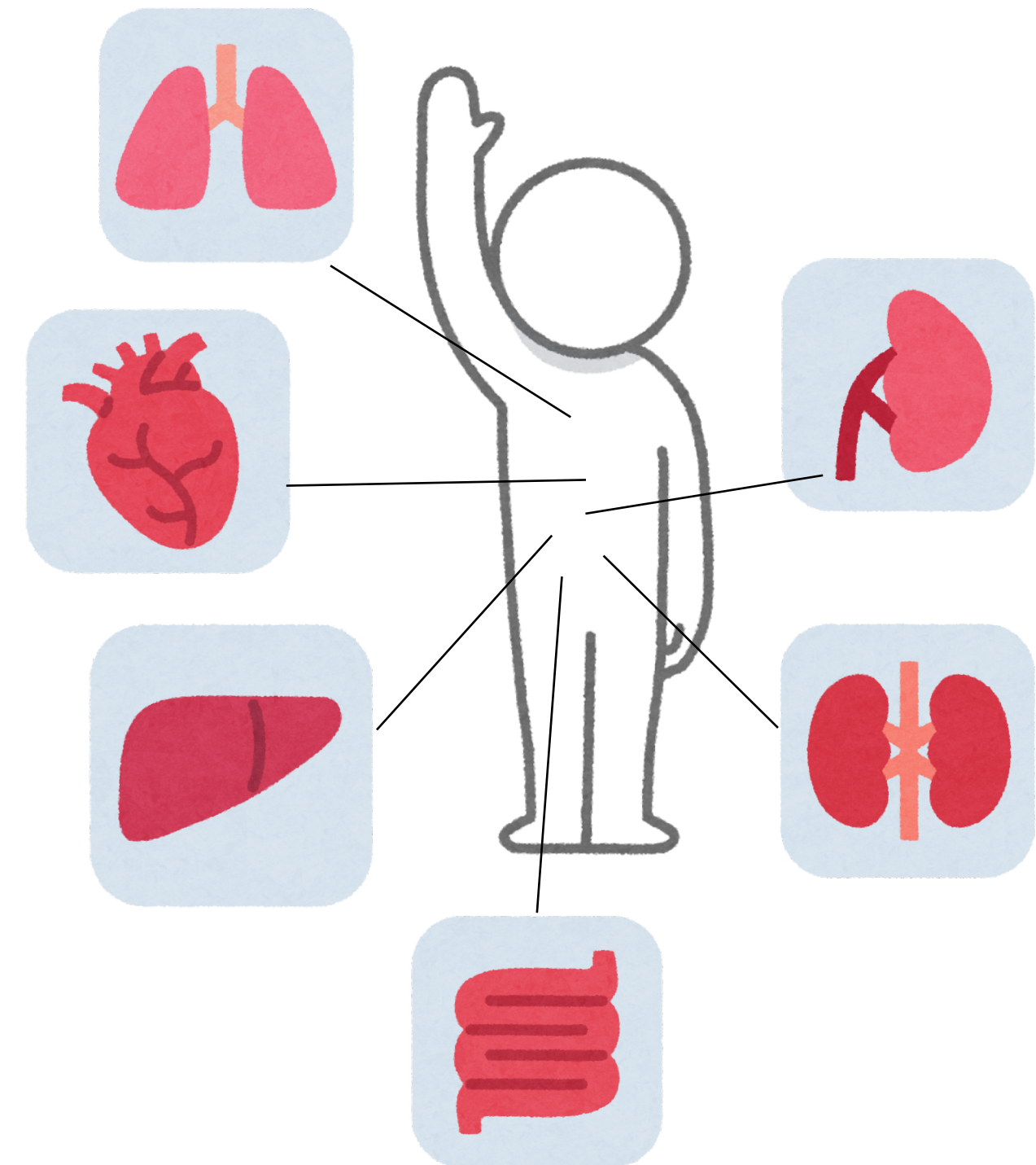
希少な薬の事例

- ある患者は生存のために希少な薬を大量に投与することを必要としている
- その薬を他の患者5人に投与すれば、5人の命を救うことができる
- 手元にある薬の量は増やすことができない
- 大量投与が必要な患者に投与すべきか？
5人の患者に投与すべきか？



臓器移植の事例

- 病院に5人の患者がいて、それぞれ異なる臓器の移植を必要としている
- そこに臓器は健康な患者が現れた
- その患者を殺して臓器を移植すれば5人助かる
- その患者を殺して臓器を取り出すべきだろうか？



多くの人を抱く直観

- 希少な薬の事例
 - 1人の患者ではなく5人の患者に投与すべき
- 臓器移植の事例
 - 5人のために1人の患者を殺すことは許されない

この直観は正しいか？

一貫性の要求①

同様な事例については、同様な判断を下さなければならない
という要求のこと

一貫性の要求を使った事例の批判

- 最初の2つの事例は、**少数の犠牲により多数が助かる**という点で同様の事例である
- 一貫性の要求に従うならば、
 - 少数の犠牲により多数を助けることは許される
 - 少数の犠牲により多数を助けることは許されないどちらかに一貫した判断を下さなければならない

われわれの直観は正当化
できないのだろうか？

一貫性の要求②

同様な事例については、同様な判断を下さなければならない

- よく似た状況について
- 異なる判断を行う場合
- **道徳的に重要な違い**を指摘できなければならない

2つの事例の重要な
違いとは何か？

2つの事例における考えうる違い

フィリップ・フット（1967年）の議論

- 希少な薬の事例→同質の義務を比較している
- 臓器移植の事例→異質の義務を比較している

5人に対して

1人に対して

希少な薬

人命を救う

積極的

人命を救う

積極的

臓器移植

人命を救う

積極的

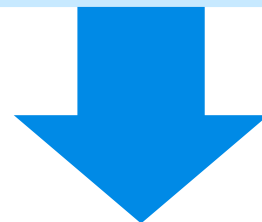
人命を奪わない

消極的

この議論からわかること

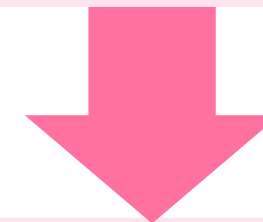
われわれが持つ倫理的判断の傾向

同質の義務を比較しているとき



犠牲の量が少ない方を優先

異質の義務を比較しているとき



消極的義務の方を優先

まとめ

倫理学における一貫性の要求とは、

- 同様の事例については同様の判断を下さなければならない
- 異なる判断をする場合は、道徳的に重要な違いを指摘できなければならない

一貫性の要求を用いて事例を分析することで、倫理に関する有益な知見が引き出されうる



死刑制度
存続

死刑制度
廃止



中絶反対

中絶容認

